

令和6年11月27日

三木市議会
議長 古田 寛明 様

議会運営委員会
委員長 大西 秀樹

行政視察報告書

下記のとおり委員会行政視察を実施いたしましたので、会議規則第107条の規定により報告します。

記

1 参加者

大西 秀樹（委員長）、大眉 均（副委員長）、西垣 弘志、
松原 久美子、堀 元子、初田 稔 計6名

2 視察内容等

日 時		場 所	内容及び対応者
10月29日	13:15 ～14:45	岐阜県 可児市	高校生議会、議会 BCP、議会報告会 (対応者) 可児市議会 議員 板津 博之 〃 〃 川合 敏己 〃 〃 松尾 和樹 〃 〃 酒向 さやか 可児市議会事務局 局長 鈴木 賢司
10月30日	9:15 ～10:45	静岡県 裾野市	議会 BCP、市議会だより等広報の充実 (対応者) 裾野市議会 議員 中村 純也 〃 〃 木村 典由 〃 〃 増田 祐二 〃 〃 賀茂 博美 裾野市議会事務局 勝又 友揮
10月30日	13:15 ～14:45	静岡県 菊川市	こども議会、議会 BCP、議会ふれあいミーティング「語ら座あ」 (対応者) 菊川市議会副議長 赤堀 博 〃 議員 渥美 嘉樹 菊川市議会事務局 局長 落合 和之

3 事前質問

(1) 高校生議会、議会 BCP、議会報告会（可児市）

ア 高校生議会

- 1) 参加者の選任方法について。
- 2) 全国的には公立学校における主権者教育が、私立高校に比べ慎重であると言われますが、可児市議会が県立可児高校の主権者教育に積極的に関わられてきた背景にはどのようなことがあったのですか。
- 3) 参加者の応募はスムーズにあるのでしょうか。
- 4) 準備も含め5日間というのは、議員も参加者も日程を合わせるのが大変ではありませんか。
- 5) 高校生議会はキャリア教育の一環として設定されたのですか。
- 6) 高校生議会開催に至った経緯及び参加高校生の選択方法について。
- 7) 高校生議会の成果（P72 に明記されていますが、それ以外にもあると思いますので）について。

イ 議会 BCP について

- 1) 策定した経緯について。
- 2) 議会防災訓練について。
- 3) 策定を検討していたのは議会運営委員会ですか。それとも特別委員会を設置されましたか。
- 4) 策定までに要した時間は。
- 5) 策定までに勉強会など開催されましたか。されたのであればその内容は。
- 6) 議会 BCP に則った議会防災訓練は、市の防災訓練等に合わせて実施されていますか。
- 7) 議会防災訓練で有効なアドバイスがあればお願いします。
- 8) 災害時の議会事務局の位置付けについて。
- 9) 議会事務局での対応が不可能な時について。
- 10) 協議については議運で行うものと理解していますが、各委員会の位置付けや各議員の役割について。

ウ 議会報告会について

- 1) 意見交換会のテーマと参加者の感想について。
- 2) 議会報告会で出された意見・要望の取り扱いについて。
- 3) 現在の議会報告会は完全オンラインですかハイブリッドですか。
- 4) 視察報告会は会派視察をされていますがなぜでしょうか。通常は委員会の報告になるのではないのでしょうか。
- 5) SNS の更新は誰がしているのでしょうか。
- 6) 議会報告会の参加者数の推移。
- 7) 三木市議会では、参加者数が減少しており市民に関心を持ってもらう為の手法をこれから検討に掛かりますが、もし御市の課題があればご教示願います。

8) 意見交換会（懇談会等）における参加団体の抽出方法について

(2) 議会 BCP、市議会だより等広報の充実（裾野市）

ア 議会 BCP

- 1) 策定した経緯について。
- 2) 感染症での対応について。
- 3) 策定を検討したのは議会運営委員会ですか、それとも特別委員会を設置されましたか。
- 4) 策定までに要した時間は。
- 5) 策定までに勉強会など開催されましたか、されたのであればその内容は。
- 6) 感染症対策編を拝見しましたが、災害種別で策定されましたか。その他には何編がありますか。
- 7) 議会 BCP に則った議会防災訓練は実施されていますか。
- 8) 非常時でも議事機関として機能発揮するため、平時とは異なる体制、運営を独自に定めておくものだと考えますが、策定までにどれくらいの時間をかけられましたか。

イ 市議会だより等広報の充実

- 1) Facebook の発信内容と発信者はどうされていますか。
- 2) 市民インタビューの対象者の選定をどのようにされていますか。
- 3) 議会アンケートの実施方法、結果についての対応について。
- 4) 委員会協議会として開催する時は、どのような場合ですか。
(委員会協議会があるのは何故ですか)
- 5) 批判的な市民の意見などの対応はどのようにされていますか。
- 6) 議会内に広報広聴委員会を作り協議されたと考えますが、委員会結成までの議論内容についてご教示願います。
- 7) YouTube をライブでは無く、録画配信とされた理由について。
- 8) 議会だより制作にあたり、題字作成や市民インタビュー実施後の反応について。
- 9) 議会だより作成に対して広報広聴委員会の関与の度合い。

(3) こども議会、議会 BCP、議会ふれあいミーティング「語ら座あ」（菊川市）

ア 高校生議会

- 1) 参加者の選任方法について。
- 2) 全国的には公立学校における主権者教育が、私立高校に比べ慎重であると言われていますが、可児市議会が県立可児高校の主権者教育に積極的に関わられてきた背景にはどのようなことがあったのですか。
- 3) 参加者の応募はスムーズにあるのでしょうか。
- 4) 準備も含め5日間というのは、議員も参加者も日程を合わせるのが大変ではありませんか。

- 5) 高校生議会はキャリア教育の一環として設定されたのですか。
- 6) 高校生議会開催に至った経緯及び参加高校生の選択方法について。
- 7) 高校生議会の成果（P72 に明記されていますが、それ以外にもあると思いますので）について。

イ 議会 BCP について

- 1) 策定した経緯について。
- 2) 議会防災訓練について。
- 3) 策定を検討していたのは議会運営委員会ですか。それとも特別委員会を設置されましたか。
- 4) 策定までに要した時間は。
- 5) 策定までに勉強会など開催されましたか。されたのであればその内容は。
- 6) 議会 BCP に則った議会防災訓練は、市の防災訓練等に合わせて実施されていますか。
- 7) 議会防災訓練で有効なアドバイスがあればお願いします。
- 8) 災害時の議会事務局の位置付けについて。
- 9) 議会事務局での対応が不可能な時について。
- 10) 協議については議運で行うものと理解していますが、各委員会の位置付けや各議員の役割について。

ウ 議会報告会について

- 1) 意見交換会のテーマと参加者の感想について。
- 2) 議会報告会で出された意見・要望の取り扱いについて。
- 3) 現在の議会報告会は完全オンラインですかハイブリッドですか。
- 4) 視察報告会は会派視察をされていますがなぜでしょうか。通常は委員会の報告になるのではないのでしょうか。
- 5) SNS の更新は誰がしているのでしょうか。
- 6) 議会報告会の参加者数の推移。
- 7) 三木市議会では、参加者数が減少しており市民に関心を持ってもらう為の手法をこれから検討に掛かりますが、もし御市の課題があればご教示願います。
- 8) 意見交換会（懇談会等）における参加団体の抽出方法について

4 所感

(1) 高校生議会、議会 BCP、議会報告会（可児市）

高校生議会は、手上げ方式で参加高校生を募集してグループに分かれ、3つのテーマについて市長・議員・高校生・職員が参加し意見交換や報告、質疑応答などを行う取組であり、5日間の日数を要するが、事前に議員と高校生が共にキャリア教育についての研修会に参加することで、進路選択の参考になっているということであった。

また、地域の課題についても意見交換を行い、地元を知ることに関わっているなど成果が表れていることに感心した。主権者教育としての役割も大いに果たしていると考えます。

参加生徒は増加していると説明を受けており、可児市同様に本市も高校生や若者に対して地域課題解決型の議論を通して、地元や市政にも関心を持ってもらうことを通じて主権者教育に取り組めるように議論していきたい。

議会 BCP について、可児市議会では議長の任期満了に伴い、解決すべき議会の課題を次年度の議長への引き継ぎ事項としており、継続して取り組むべき課題が明確に示されていた。その課題の一つとして議会 BCP が取り上げられ、コロナ感染が拡大する中で議会の機能を維持するための対策、その他災害発生時に議会としてどのように対応するかなどを盛り込んで「可児市議会 議会業務継続計画」として策定され、策定期間に 1 年を要している。

策定後は市の防災訓練に合わせて議員が各地の防災訓練に入り、タブレット端末を利用して情報収集を行い、それら災害現場の写真や状況を議長が集約し、議会事務局に報告するなど実践的な訓練を行っている。また、議長から抜き打ちで安否確認の報が各議員のスマホなどに入り、速やかに返信する訓練も行っており、平時からの訓練が必要と感じた。ちなみに BCP は大分市のものを踏襲しているとのこと。三木市では BCP が未策定のため、感染症や災害時の危機管理体制強化に向けた議論を重ねることが必要と感じた。

議会報告会について、可児市では年 2 回（5 月、11 月）として、常任委員会単位で 2 年をかけて全地区を回っている。

かつての議会報告会（対面式）では対立的になりやすいことから、常任委員会ごとにテーマを定め、市民は複数のテーマから 1 つを選択し、テーマごとに市民と常任委員会とでグループになり、意見交換を行うスタイルで実施したり、あるいは各種団体との意見交換を行う手法に改めた。

また、会派として行った視察の報告会も行われたことがあり、議会活動の周知に取り組まれていると感じた。

本市においては、従来の報告会のあり方などを検証し、更に関心を持って参加し意見交換ができるような報告会、または意見交換会など多様な広聴のあり方を検討する時期に来ていると感じている。

(2) 議会 BCP、市議会だより等広報の充実（裾野市）

裾野市では議会改革特別委員会の中に 3 つの分科会を置き、そのうちの第 1 分科会において議会 BCP の策定に取り組み、まず令和 3 年 7 月に感染症に対して BCP を策定した。

その後、令和 4 年 9 月の市議会議員改選後、議長より議会 BCP の完成を指示されたことにより、感染症等に加え、災害対策も追加して再整備することとされ、

素案作成から議運協議を経て議員協議会にて決定され、令和6年9月に完成した。

特徴的なのは、BCP とは事業継続計画という意味であるが、ここでは議会は事業ではなく、機能であるとの考えから、「機能継続計画」とされている。そして、分かりやすく一目で判断できるように、災害発生からの一連の主な流れを図式化している。ここは三木市議会も参考にすべき点と思う。BCP の内容は様々な他の市議会 BCP のいいところ取りとの事だが、良く考えられた内容になっているのではないかと思う。BCP の訓練は、議長からの抜き打ちの安否確認訓練が主である。

市議会だよりについては、広報広聴を所管する常任委員会を設置しており、題字作成や市民インタビューにより市民参画者を増加させ、関心を持ってもらえるように努力されている。全面カラー刷りで横書きとしているので見やすく、市民の声も掲載しているのが良い。表紙の写真は議員が撮影するなど、編集作業における議員のかかわりが大きい。

また、YouTube による録画配信や市議会 facebook を開設して議長公務などを含め閉会中も積極的な発信を行われている。

経費面などから YouTube による配信の是非や、SNS による発信も検討して、より多くの市民に情報を届ける手法を検討したい。

(3) こども議会、議会 BCP、議会ふれあいミーティング「語ら座あ」（菊川市）

こども議会は、将来の市議会議員及び有権者の教育を図ることを目的として実施している。

市内の小学校 10 校から 6 年生を 1 人ずつ選出。令和 5 年については小学 5 年生から中学 3 年生を対象に 15 人を定員として募集した。小学 3 年生の積極的参加もあり、定員 15 名に達した。各議員が各家庭や学校に出向き説明を行った。関係機関の役割としては、議員はこども議員と一緒に、テーマ決めや研究、提言書の作成を行い当日のサポートをすることである。執行部は調査研究への協力。また、こども達の意見や提言を聞き、今後のまちづくりの参考とすることである。市長は発言に対する講評を行う。日程については、夏休みの 5 日間を利用している。

三木市としては、こども議会に限らず将来を担う世代に対して、郷土愛醸成や主権者教育の一環として意見交換等をする事が必要と考える。

議会 BCP については、令和 2 年に菊川市議会災害時業務継続計画を策定し、災害発生時は、議長・対策会議・議員・市議会・議会事務局の対応を基本的なパターンとして時系列で示している。

会議の組織については正副議長、議会運営委員長及び常任委員長で構成し、それぞれに不測の事態が生じた時には職務代理者を定めている。

特徴的なのは、毎年 9 月定例会初日に傍聴者も交え参加者全員で避難誘導訓練を実施されていることである。また、総合防災訓練や地域の防災訓練において議

員の安否確認訓練と情報収集訓練、議会災害対策会議設置訓練を行なっている。当局や市民を交えての平時からの訓練は、災害時に議会 BCP を実行する上で非常に大切と考える。

議会ふれあいミーティングは、議会基本条例に基づき「見える議会・開かれた議会」を目指して取り組まれている。11 地区の各自治会で、1 地区につき年 1 回開催している。班編成は 4 班（1 班 4 名から 5 名）、1 会場 2 班体制で、夜に開催する報告会に参加できない市民のために、週休日に全体会を開催。また、全体会では託児環境や手話通訳の実施にも取り組まれている。意見交換や意見聴取については、ホワイトボードや付箋などを活用した発表をされ、参考になった。YouTube でも配信されている。また周知については市議会 facebook や市公式 LINE 等によってなされている。

(4) 各市を通して

議会 BCP について、各市議会ともそれぞれの特性を生かし、策定されていた。三木市は 30 年前に阪神淡路大震災を経験していることから、今回の研修で得た知識、資料などを参考にしていきたい。

議会報告会については、動員しないと足を運んでもらえない、意見交換の時間で質問も意見も出ずに盛り上がらない等、視察を行った各市議会でも共通の懸案事項であった。これは三木市議会でも直面している問題であり、今後議会報告会のあり方をどうするか検討する際の参考としたい。

このたびの視察を通して、様々な改革を行うためには、まず現状を把握し、問題点を認識しどう改革していくかを議論し、一つ一つ進めていくことが必要と感じた。